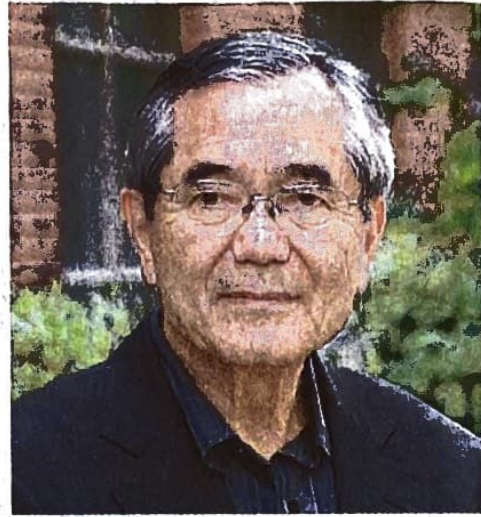


社交的、合唱好きの国際人



医薬品や液晶など様々な材料の製造に利用されている「パラジウム触媒を使うクロスカップリング反応」は、2010年のノーベル化学賞に輝いた。ゴルフや合唱も好きでうまかった。多くの研究者が「社交的で国際人だった」と認める。

ねぎし えいち
根岸 英一さん
(ノーベル化学賞受賞者)

戦時中の父親の勤務の關係で旧満州国の新京（現中国吉林省長春市）で生まれ、終戦のとき日本に戻った。東京大学で化学を学んで帝人に就職するが、力不足を認識して米国へ留学、ペンシルベニア大学で博士号を取得した。帝人に戻ったものの研究者の道を諦められず、留学時に知ったパデュー大学のブラウン教授の指導を仰いだ。

ブロックを組み立てるおもちゃをヒントにパラジウム触媒を使うクロスカップリング反応にたどり着いた。1976年に発表したとき特許は取得せず、企業は自由に活用できた。

歌唱のレパートリーは1000曲以上といい、海外で請われれば現地の言葉で歌った。自宅には舞台代わりになる踊り場がある。親交の長い東大の中村栄一特別教授はそこで、根岸氏のピアノを伴奏にフルートを演奏した。「一緒に過ごした人は国籍を問わず、皆元気をもらった」と回想する。

11月6日没、85歳

(永田好生)

11月6日没、85歳
写真提供はパデュー大学提供

日本經濟新聞(夕刊)

2021年(令和3年)8月13日(金曜日)
